

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 (B)		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381番地の2		
自己評価作成日	令和元年8月27日	評価結果市町村受理日	令和元年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigvo_svoCd=2392000044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和元年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は純和風の外観であり、尚ユニットからは中庭で栽培している菜園や花を眺めることができます。近くには河川敷公園があり、景色も良く、散歩にとても最適となっています。地域の方々も散歩に訪れており、触れ合いの場となっています。また地域の方との交流にも力を入れており、自治会、民生委員の方と協力を図りながら「認知症カフェ」の開催も続けております。それにより地域での助け合い、災害時の協力体制が確立することが出来ております。認知症ケアの強化にも努めており、利用者様が主体的に暮らし、一人ひとりの個性を引き出しながら、さり気ない介助、声かけを心掛けています。施設へ入居されても地域社会との繋がりを続けていけるよう「人と触れ合う楽しみや喜び、助け合い」といった事を大切にしています。小中学校、自治会等との交流を中心に施設として様々な活動を地域に発信していけるよう努めております。また30年度より併設施設である小規模多機能ホームと連携を行いながら、地域の子供の居場所作りとして「エミツ子ひろば」を開設し、小学生児童が大勢訪れ、利用者様との

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地内に特別養護老人ホームや小規模多機能ホームなどが隣接する事業所は開設9年を迎えた。平屋建てで、洒落た中庭や木の温もりを感じる室内は落ちた雰囲気を醸し出している。「入居者の笑顔が絶えない施設づくり」を目指して毎年、職員で話し合っ事業所独自の目標を掲げ、その人ができることを支え笑顔で過ごせるようにと職員間で話し合いケアに繋げるようにしている。ドアを挟んで隣接している小規模多機能ホームとは、イベントや入浴施設を介して交流をしている。また、昨年度から地域の子供の居場所作りとして「エミツ子ひろば」を開設し、学童が訪れ入居者との触れ合いの場となっている。自治会と共同で子どもや地域の見守りを行ったり、草取りや祭礼に参加するなど積極的に地域に働きかけている。保育園や小中学校との交流も楽しみの一つとなっている。イベントなどを通して特養など隣接事業所の入居者や地域の方との交流、認知症カフェ「ぬくといカフェ」や地域の「ふれあいサロン」へ出かけたしたり地域との繋がりが大切になっている。入居者は、中庭で菜園を手掛けたり、テラスでバーベキューをして楽しんだり、誕生日の個別外出で入居者一人ひとりの希望に添って外出をし一日ゆっくり過ごしている。テレビを見たり職員と会話をしたり、趣味の塗り絵や縫物などをして思い思いの時間を穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「全ては利用者様の為に」といった事を掲げ、全職員が利用者様の生活を支えていけるよう取り組んでいる。また自施設の目標も年度毎に掲げ、利用者様主体を念頭においた支援が行えるよう全職員の意思統一を図っている。	法人の理念と事業所理念を玄関に掲げている。「入居者の笑顔が絶えない施設づくり」を目指して毎年、職員で話し合って事業所独自の目標を設定している。職員は、目標をもとに自分に取り組むべき課題を設定し、振り返りをしながら日々のケアに対し意欲的に取り組んでいる。また、リーダーを中心に意思統一を図り実践につなげている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、民生委員の方々と協力し合いながら「認知症カフェ」の開催継続、地域のイベントへの参加など、施設全体として積極的に交流を図るよう努めている。30年度より子供の居場所作り「エミツ子ひろば」にも力を入れ、小学生児童との交流の場も開始している。	町内会に加入し積極的に地域の草取りや防災訓練、祭礼などに参加している。事業所主催の夏祭りには、毎年大勢の地域の方が集い、入居者と一緒に交流する機会としている。下校時の地域の子どもの見守隊や学童の居場所としての「エミツ子広場」の開催、定期的な「ぬくといカフェ」の開催など地域のコミュニティとしての役割を担っている。ボランティアによる踊りや楽器の演奏、保育園児との交流、小中学校の運動会や学芸会の参加、力士の慰問など、地域に住む人たちとふれあう機会を大切にしている。専門学生の介護実習も受け入れ、高齢者を地域で支え合うことの大切さを学ぶ場の提供をしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄れる環境を整えており、地域の方からの質問や相談を受け入れる体制を作っている。職員も積極的に研修や勉強会に参加するようにし、知識向上に努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行い、その中で参加者からの意見を伺い、施設サービスの向上に努めている。また施設として地域に発信できるような事も考え、意見交換を続けている。	正副自治会長、民生委員、地域包括センター職員、寿宝会職員の参加を得て年6回実施している。入居者の生活の様子や行事の報告、事故報告や対応、また、熱中症や感染症、防災や防犯、イベントなどについて参加者と積極的な話し合いが行われ有意義な会議としている。参加者からの情報や意見、提案等はそこで話し合い記録をして、会議などで協議しサービスの向上に活かしている。家族には、毎回会議案内や議事録を郵送しているが、参加が少ない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業所のサービス内容、取り組みなどを伝え、助言を頂いている。また運営推進会議を通じて、様々な意見を頂くよう努めている。	担当窓口には、認定書類や申請の代行業務などで出向き、活動報告やサービスの内容などを伝え、良好な協力関係を築いている。地域包括とは入居者の状況や地域の困難事例の相談など、必要に応じ連絡を取り情報交換をしている。グループホーム協議会の主催する「グループホーム合同作品展」や「輪投げ大会」、研修会など積極的に参加をしてサービスの向上に活かしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制止したり、職員の都合で抑制しないよう職員間で話し合い、支援を行っている。安全な問題が発生してしまった際は、検討会を開催し、支援方法を検討するなどの対応を行っている。	身体拘束委員会を設置し、3か月ごとに事例をもとに検討会を実施している。拘束に対する職員の意識を高め、人としての尊厳を大切にスピーチロックや不適切な対応をしないケアをしていくことを周知理解を深めるようにしている。ユニット間や中庭などは、自由に行き来でき、開放的な生活空間の提供や束縛感のない生活が送れるよう配慮している。防犯上家族の承諾を得て玄関は施錠しているが、問題が発生した場合は、その都度、検討会を開催し協議して取り組むようにしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に虐待行為の兆候を見逃さないよう意識し合い、職員同士で助け合いながらストレスを溜め込んでしまわないよう心掛けている。困った時は、お互いにアドバイスをしながら皆でレベルアップ出来るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修に参加し、施設内でも勉強会を開催し、職員全員で知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針、ケアに関する取り組みなどを説明した上で、ご利用者様、ご家族様の希望、要望を聞き入れ、納得を頂いている。また退居後の対応なども説明し、安心して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会、責任者会議を開催し、第三者委員からの意見なども伺いながら希望、要望、または改善に繋がるよう対応している。また面会時などに話をする機会を設け、意見を頂くようにしてる。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聴き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時や家族会、行事の折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立っている。毎年、接遇やサービス内容、施設の環境などについて家族アンケートを実施し、内容を分析してサービスの向上に役立っている。意見箱を設置し意見を述べやすい環境を整えている。入居者の日ごろの様子を記載したグループホーム便りを毎月発行して家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、責任者会議を毎月開催し、職員からの意見や要望を聞き入れながらコミュニケーションを図るようにしている。管理者は職員の様子を見ながら常に気に掛け、状況に応じて面談などを行い、関係性を作っている。	日常の業務の中や引継ぎ時また、毎月の全体会議や責任者会議に加え、今年度より導入した介護士会議などで職員からの提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。全職員に人事考課を導入し、それぞれが設定した目標に対して自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。管理者とは年2回の面談の他に随時話し合う機会があり、常に職員の提案や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境などに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面、体調面に気を配り、悩みや疑問解決に取り組んでいる。年2回の人事考課を行い、職員が向上心、キャリアアップに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には積極的に参加して頂き、知識の向上に努めている。研修参加後は、復命書の提出、全職員への勉強会を行い、周知に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修に参加し、他事業所の方との交流、意見交換を行い、日頃のケアに活かしている。事業所内の勉強会の中でも他事業所からの意見について話し合いを行い、物事を前向きに考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、身体状況の把握をし、利用者様の求めている事やご家族様の要望なども理解するよう努めている。職員は常に利用者様本位の考え方をもち、状況把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めている事、負担に感じている事などを聞き入れ、理解した上で事業所としての支援方法を伝えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の困っている事、不安に感じている事を見極め、出来る事はすぐ実行するよう努めている。また改善が困難な事などについては、方策を考えながら今後の対応策としての案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用様が辿ってきた生活リズムや環境を大切にしながら得意な事、やる気がある事を把握し、参加意欲を持って頂けるようにしている。職員側も「学ばせて頂く。」という事を思いながら尊敬の気持ちを忘れないよう接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中での出来事、体調面に関して、面会時や毎月の手紙の中で報告したり、支援方法について相談するなど、ご家族様と常に連携が図れるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に応じて、外出機会を設けたり、近隣の方、地域の方と触れ合える場(サロンやお祭りなど)へ出向き、「人と触れ合う喜び」を感じて頂けるようにしている。	入居時にこれまでの生活歴を入居者や家族から聴き、入居者が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。会社の旧友と外出したり、お墓参りに出掛けたり、今までの馴染みの人や場所の関係が途切れないような支援に取り組んでいる。また、日常の買い物、包丁を使っての調理も含め家事の継続、趣味の縫物などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かすように努めている。地域のサロンやお祭りなどに出掛け地域の方と触れ合うことで、新しい馴染みの人や場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの相性を把握し、配席を考えたり、孤立してしまう方、障害によりコミュニケーションが上手に取れない方などは、職員が積極的に関わり、他の方との関係を仲介するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も気軽に相談などを受け入れる体制を整えている。相談を受けた際は、丁寧に話を聞き、ご家族様の不安や心配事の解消に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、その時々感じている希望や要望を掴み取り、定期的に開催するモニタリングの際に職員間でケア内容を話し合うようにしている。また日頃からどのような暮らしを望まれているのかも伺いながら個々の気持ちを大切に考えた関わりを行うようにしている。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないように心がけたり、日常のさりげない会話や表情などから本人の思いや希望を聞き出すようにしている。内容によっては、居室などの落ち着いた場所で聞くように配慮している。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、思いに寄り添う支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前アセスメントや面接の中から、これまでの生活歴を知り、支援していく中でどのような事に興味を持ったり、過ごしやすくと感じているのかを少しずつ把握していくよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子、関わりの中で知り得た状況を記録に残したり、職員間で情報交換を行いながら把握に努めている。また必要に応じてケアの方向性を検討するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直しを行う際は、本人様を主体として物事を考え、望んでいる事、抱えている悩みや思いなどを全面に打ち出しながら施設計画書に繋げている。アセスメントを行う際は、出来ている事、得意としている事などに注目して考え、可能性を導き出すように努めている。	日常の様子や入居者の思い、身体状況の変化を記載した事業所独自の「アセスメント課題分析シート」をもとに担当者会議で話し合い、情報を共有しながら介護計画の作成を行っている。3か月ごとに、健康面や食事、日常生活について、モニタリングを行い入居者や家族の意見を聞き目標を設定して、6か月ごとに介護計画の見直しを行っている。入居者、家族の意向等を踏まえ、必要に応じて医師や看護師、栄養士や歯科医などの意見を反映して現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子の中から、これまでとは違う変化や取り組んで良かった点、失敗した事、改善が必要な事など細かく記録に残し、臨機応変に支援方法を考えながら現状の改善に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の希望、要望を聞き入れながら状況に応じて、より良い支援となるよう広い視野で物事を考えるようにしている。施設で行うサービスに捉われず、一人ひとりの生活リズムに目を向けるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、民生委員、自治会、豊橋市役所職員と意見交換を行い、地域の方と一緒に協力を合える関係性が持てるよう体制の確立に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望に応じて、かかりつけ医への受診を支援している。また月2回、施設主治医の往診もあり、適切な医療、緊急時の連携、対応も早期に行えるよう医療面の充実を図っている。H30年度より歯科衛生士の訪問にて口腔衛生指導を受けながら肺炎予防等にも重点をおくよう対応している。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月2回、提携医による往診、肺炎予防や口腔衛生の維持のため月2回の口腔ケアと2ヶ月に1回の歯科の往診が受けられる。また、法人のマッサージ師によるマッサージが受けられる。専門医には職員が付き添いし、診察を受け、受診結果は記録され、申し送り等で周知しケアに活かしている。健康状態に変化があった場合は、提携医や看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、介護職員と協力し合いながら状態の変化、健康管理に努め、必要に応じた支援を行うようにしている。緊急時には、主治医への報告にて適切な助言、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医と情報交換を行いながら指示を仰いでいる。入院中については、こまめに介護職員、看護職員が面会に伺い、回復状況の把握、担当医との話し合いを行い、早期退院に努めている。同時に環境の変化による気持ちのケアも大切に考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時、終末期ケア、重度化についての意向確認を行い、利用者様、ご家族様の思いに沿った対応を行うようにしている。また終末期、重度化になった際は、再度、主治医、ご家族様と相談しながら意向に沿った対応を行うよう努めている。(H30年度看取り件数：2件)	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し計画の見直しを行っている。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、希望に添う看取りができるよう支援をしている。職員は、法人が行う終末期を含めた医療や介護、メンタルケアなどの勉強会に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員にて応急処置の勉強会を行ったり、消防職員による救命講習の研修を実施するなど意識向上を図っている。緊急時マニュアルも作成し、職員が常に閲覧できる場所に設置し、常に意識を持って頂くよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員、防火管理者立会いの下、年2回避難訓練を実施し、その都度助言を頂きながら問題点の洗い出しを行っている。また地域の防災訓練にも参加し、お互いに協力し合える事を検討出来るよう努めている。H30年度より避難確保計画も作成し、地域連携にも努めている。	年2回消防署員立会いのもと、火災や地震の他に様々な災害を想定し、昼間帯や夜間帯を設定した避難訓練を実施し、避難誘導や避難経路の確認、隣接する特養への避難の実施、備蓄品の点検なども実施している。運営推進会議で、事業所の防災についての話し合いや地域の防災訓練などの情報交換を行っている。地域と防災協定を結び、災害時には隣接する特養が地域避難所となっていることから、地域住民との協力体制がより強固となっている。備蓄品はリストにより管理され、入居者と職員分を含め水や食料など1週間分が用意されている。また地域の防災訓練にも参加している。昨年の教訓を生かして、停電時の対応など今後、自主的に防災訓練を増やしていく予定にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの個性や意思を尊重し、物事を行う際は、職員の都合で利用者様の生活を制限したりすることのないよう努めている。また利用者様自身で選択し、決定して頂けるよう促しを行っている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し「人生の先輩」として感謝の気持ちを持って対応し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなど統一して確認し合いながら支援に努めている。また、毎年接し方や言葉かけなどの接遇研修を行い、職員で話し合っ知識や技術の向上に努めている。夜間は、部屋に鍵をかけて休まれる入居者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側からの声かけを工夫し、意見が言いやすい環境を作り出すようにしている。また遠慮や言葉を閉ざしてしまう利用者様に対しては、言葉だけでなく、行動から察知したり、サインを出すなど様々な支援から見極めるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを決めず、起床から就寝までの時間を一人ひとりのペースで過ごして頂けるよう物事を強制はしないようにしている。日頃の関わりの中でも本人様の希望、要望を聞き入れながら生活リズムの改善に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えて頂く際は、自身で衣服を選択して頂けるような場を設け、楽しみの一環に繋げている。また自身で選ぶ事が困難な方には、気温や機能性、色合い等を職員が考えながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳、汁物の調理など本人様の得意な事、力量に合わせて利用者様同士の役割分担を考えながら、やりがいや充実感、達成感に繋げられるよう支援している。またおやつ作りも充実させ、楽しみの一環となるよう計画している。	法人の栄養士により季節の食材を取り入れた副食が、特養の厨房で調理されている。ご飯と味噌汁は、事業所で入居者と一緒に手作りしている。菜園で収穫した季節の野菜は、味噌汁の具や漬物として食卓に彩を添えている。調理や盛り付け配膳、下膳、洗い物などその人の得意分野を生かして、職員と一緒にやっている。また、栄養士と相談してメニューを変更し、おせち料理や中庭でのバーベキューなど、季節や行事などに配慮して変化のある食事作りをして食事を楽しんでいる。おやつ作りでは、お好み焼きや和菓子や洋菓子など、職員と一緒に作って楽しんでいる。希望を聞いて近くの食事処に出掛けることも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日記録に残し、職員間で情報共有を行っている。嚥下状態にも注意しながら観察を行い、状態に応じて、管理栄養士、主治医へ相談しながら対応方法を検討するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの力量に合わせた支援を行っている。また職員へも口腔ケアの重要性を理解して頂けるよう勉強会を開催したり、常日頃から指導し合うようにしている。歯科往診(歯科衛生士)も開始しており、口腔衛生指導にも重点をおいて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品に頼らず、出来る限りトイレでの排泄が行えるよう利用者様一人ひとりの排泄パターンを観察しながら声かけや案内のタイミングを計っている。居室環境にも注目し、必要に応じて、ポータブルトイレの設置なども行い、「座って排泄する」といった事への支援を重要視している。	個々の排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。個々の状態に合わせてたりハビリパンツやパッドを利用して日中は、「座って排泄する」に取り組み、自力での排泄を目指している。夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にし、丁寧な見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に記録し、便秘傾向が見られる方には、乳製品などを提供し、自然排便に繋がられるよう努めている。日頃の運動にも目を向けるようにし、活動量の増加に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を定めず、体調や気分に応じて入浴して頂けるよう声かけを行っている。また同姓介助を心掛け、羞恥心にも配慮し、言葉の伝え方、入浴手順など個々のリズムに合わせた対応を行うよう努めている。	入浴は一人ひとりの体調を考慮しながら毎日入浴できる環境を整えている。お湯は午前と午後で入れ替えをして気持ちよく入浴できるよう配慮している。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。状態の変化に応じて併設の小規模にある機械浴を利用できる環境を整えている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの様子を観察し、必要と思われる時や希望が聞かれる時は休息して頂くようにしている。安心して眠れるよう服装や室温調整、灯りなどを考えたり、温かい飲み物を提供、足浴などの対応を行い、安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書、注意事項を個人ファイルに保管し、薬の重要性を全職員が認識出来るようにしている。服薬時は、名前の読み上げなどを行い、誤薬の危険性にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品などを把握し、その時々希望によって個別支援を行っている。利用者様同士の共通の趣味にも目を向けるようにし、お互いに助け合い、相談しながら楽しんで頂くような場を作り上げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出行事を企画し、日にちを分けて、気の合う利用者様同士で屋外へ出掛ける機会を作っている。また地域の方と触れ合える場所(サロンなど)へ向向くなど、共に話をしたり、身体を動かしたりといった場も大切に考えている。	事業所の周りは自然環境が豊かで気軽に散歩や買い物に出掛けられる環境にある。お天気の良い日には畑の手入れや中庭に出て洗濯干しをしたり、季節の花々を眺めながら日光浴など外気に触れる機会を大切にしている。誕生日には入居者一人ひとりの希望に添って外出を一日ゆっくり過ごしたり、喫茶店や買い物などに出掛けたりしている。春には桜や菖蒲、秋には紅葉狩りや遠出の外出など入居者の希望を聞いて計画を立て出掛けている。定期的に施設に訪訪するパンやお菓子、シフォンケーキ等の移動販売車での買い物は、入居者に戸外に出る良い刺激となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族様の意向に合わせて施設管理の方もおられる。本人様の意向も大切にし、ご家族様と相談の下、自己管理されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて親しい方と電話で会話をしたり、ご家族様や知人へ手紙を書いて頂く機会を作ったりと、誰かに自分の思いを伝える喜びを感じて頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自然光を室内に入れるようにし、開放感のある空間を大切にしている。また換気をこまめに行うよう配慮し、空気の入替え、臭いへの対処にも注意を向けている。玄関を中心に掲示物を設け、目で見て楽しんで頂けるような空間も作っている。	天井が高く天窓や中庭の掃き出し窓からは自然光が差し、風通しの良い食堂と居間がワンフロアの共有スペースとなっている。窓からは、季節の花々や庭木を眺め季節の移り変わりを感じたり、ソファに腰かけて音楽やテレビを鑑賞したりして、のんびり過ごしている。壁面には、絵画や作品展に出品された作品が飾られ落ち着いた大人の空間になっている。余暇の時間には、絵を描いたり、計算をしたり、得意な裁縫をしたりと、入居者一人ひとりに合わせた居心地のよい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごされる事の多い利用者様には、職員が積極的にコミュニケーションを図っている。利用者様同士で関わりが持てるような会話の仲介や気兼ねなく過ごす事ができる場所を見つけ出せるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた思い入れのある物を居室に持ち込んで頂き、生活空間の環境を整えられるよう支援している。また身体状況、状態に応じて、利用者様、ご家族様と相談しながら環境空間の改善を行うようにしている。	居室には、大きなクローゼットと洗面台が備え付けられている。自宅で使い慣れた整理タンスや椅子、テレビを持ち込み安心して過ごせる環境作りをしている。また、家族と連絡するための電話を設置したり、家族の写真や愛着のある手作り作品などを飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者様の身体状況に合わせて、安全に生活して頂ける環境を整えている。生活して頂く中で、不具合が生じると感じた際は、職員間で話し合いながら環境改善に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 (A)		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381番地の2		
自己評価作成日	令和元年8月27日	評価結果市町村受理日	令和元年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392000044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和元年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は純和風の外観であり、両ユニットからは中庭で栽培している菜園や花を眺めることができます。近くには河川敷公園があり、景色も良く、散歩にとても最適となっています。地域の方々も散歩に訪れており、触れ合いの場となっています。また地域の方との交流にも力を入れており、自治会、民生委員の方と協力を図りながら「認知症カフェ」の開催も続けております。それにより地域での助け合い、災害時の協力体制が確立することが出来ております。認知症ケアの強化にも努めており、利用者様が主体的に暮らし、一人ひとりの個性を引き出しながら、さり気ない介助、声かけを心掛けています。施設へ入居されても地域社会との繋がりを続けていけるよう「人と触れ合う楽しみや喜び、助け合い」といった事を大切にしています。小中学校、自治会等との交流を中心に施設として様々な活動を地域に発信していけるよう努めております。また30年度より併設施設である小規模多機能ホームと連携を行いながら、地域の子供の居場所作りとして「エミツひろば」を開設し、小学生児童が大勢訪れ、利用者様との触れ合いの場になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地内に特別養護老人ホームや小規模多機能ホームなどが隣接する事業所は開設9年を迎えた。平屋建てで、洒落た中庭や木の温もりを感じる室内は落ちた雰囲気を出している。「入居者の笑顔が絶えない施設づくり」を目指して毎年、職員で話し合っ事業所独自の目標を掲げ、その人ができることを支え笑顔で過ごせるようにと職員間で話し合いケアに繋げるようにしている。ドアを挟んで隣接している小規模多機能ホームとは、イベントや入浴施設を介して交流をしている。また、昨年度から地域の子供の居場所作りとして「エミツひろば」を開設し、学童が訪れ入居者との触れ合いの場となっている。自治会と共同で子どもや地域の見守りを行ったり、草取りや祭りに参加するなど積極的に地域に働きかけている。保育園や小中学校との交流も楽しみの一つとなっている。イベントなどを通して特養など隣接事業所の入居者や地域の方との交流、認知症カフェ「ぬく〜カフェ」や地域の「ふれあいサロン」へ出かけたりして地域との繋がりがやや絆を大切にしている。入居者は、中庭で菜園を手掛けたり、テラスでバーベキューをして楽しんだり、誕生日の個別外出で入居者一人ひとりの希望に添って外出をし一日ゆっくり過ごしている。テレビを見たり職員と会話をしたり、趣味の塗り絵や縫物などをして思い思いの時間を穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「全ては利用者様の為に」といった事を掲げ、全職員が利用者様の生活を支えていけるよう取り組んでいる。また自施設の目標も年度毎に掲げ、利用者様主体を念頭においた支援が行えるよう全職員の意思統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、民生委員の方々と協力し合いながら「認知症カフェ」の開催継続、地域のイベントへの参加など、施設全体として積極的に交流を図るよう努めている。30年度より子供の居場所作り「エミツ子ひろば」にも力を入れ、小学生児童との交流の場も開始している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄れる環境を整えており、地域の方からの質問や相談を受け入れる体制を作っている。職員も積極的に研修や勉強会に参加するようにし、知識向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行い、その中で参加者からの意見を伺い、施設サービスの向上に努めている。また施設として地域に発信できるような事も考え、意見交換を続けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業所のサービス内容、取り組みなどを伝え、助言を頂いている。また運営推進会議を通じて、様々な意見を頂くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制止したり、職員の都合で抑制しないよう職員間で話し合い、支援を行っている。安全面の問題が発生してしまった際は、検討会を開催し、支援方法を検討するなどの対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に虐待行為の兆候を見逃さないよう意識し合い、職員同士で助け合いながらストレスを溜め込んでしまわないよう心掛けている。困った時は、お互いにアドバイスをしながら皆でレベルアップ出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修に参加し、施設内でも勉強会を開催し、職員全員で知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針、ケアに関する取り組みなどを説明した上で、ご利用者様、ご家族様の希望、要望を聞き入れ、納得を頂いている。また退居後の対応なども説明し、安心して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会、責任者会議を開催し、第三者委員からの意見なども伺いながら希望、要望、または改善に繋がるよう対応している。また面会時などに話をする機会を設け、意見を頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、責任者会議を毎月開催し、職員からの意見や要望を聞き入れながらコミュニケーションを図るようにしている。管理者は職員の様子を見ながら常に気に掛け、状況に応じて面談などを行い、関係性を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面、体調面に気を配り、悩みや疑問解決に取り組んでいる。年2回の人事考課を行い、職員が向上心、キャリアアップに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には積極的に参加して頂き、知識の向上に努めている。研修参加後は、復命書の提出、全職員への勉強会を行い、周知に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修に参加し、他事業所の方との交流、意見交換を行い、日頃のケアに活かしている。事業所内の勉強会の中でも他事業所からの意見について話し合いを行い、物事を前向きに考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、身体状況の把握をし、利用者様の求めている事やご家族様の要望なども理解するよう努めている。職員は常に利用者様本位の考え方をもち、状況把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めている事、負担に感じている事などを聞き入れ、理解した上で事業所としての支援方法を伝えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の困っている事、不安に感じている事を見極め、出来る事はすぐ実行するよう努めている。また改善が困難な事などについては、方策を考えながら今後の対応策としての案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用様が辿ってきた生活リズムや環境を大切にしながら得意な事、やる気が持てる事を把握し、参加意欲を持って頂けるようにしている。職員側も「学ばせて頂く。」という事を思いながら尊敬の気持ちを忘れないよう接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中での出来事、体調面に関して、面会時や毎月の手紙の中で報告したり、支援方法について相談するなど、ご家族様と常に連携が図れるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に応じて、外出機会を設けたり、近隣の方、地域の方と触れ合える場(サロンやお祭りなど)へ出向き、「人と触れ合う喜び」を感じて頂けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの相性を把握し、配席を考えたり、孤立してしまう方、障害によりコミュニケーションが上手に取れない方などは、職員が積極的に関わり、他の方との関係を仲介するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も気軽に相談などを受け入れる体制を整えている。相談を受けた際は、丁寧に話を聞き、ご家族様の不安や心配事の解消に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、その時々感じている希望や要望を掴み取り、定期的に開催するモニタリングの際に職員間でケア内容を話し合うようにしている。また日頃からどのような暮らしを望まれているのかも伺いながら個々の気持ちを大切に考えた関わりを行うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前アセスメントや面接の中から、これまでの生活歴を知り、支援していく中でどのような事に興味を持ったり、過ごしやすくと感じているのかを少しずつ把握していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子、関わりの中で知り得た状況を記録に残したり、職員間で情報交換を行いながら把握に努めている。また必要に応じてケアの方向性を検討するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直しを行う際は、本人様を主体として物事を考え、望んでいる事、抱えている悩みや思いなどを全面に打ち出しながら施設計画書に繋げている。アセスメントを行う際は、出来ている事、得意としている事などに注目して考え、可能性を導き出すように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子の中から、これまでとは違う変化や取り組んで良かった点、失敗した事、改善が必要な事など細かく記録に残し、臨機応変に支援方法を考えながら現状の改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の希望、要望を聞き入れながら状況に応じて、より良い支援となるよう広い視野で物事を考えるようにしている。施設で行うサービスに捉われず、一人ひとりの生活リズムに目を向けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、民生委員、自治会、豊橋市役所職員と意見交換を行い、地域の方と一緒に協力を合える関係性が持てるよう体制の確立に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望に応じて、かかりつけ医への受診を支援している。また月2回、施設主治医の往診もあり、適切な医療、緊急時の連携、対応も早期に行えるよう医療面の充実を図っている。H30年度より歯科衛生士の訪問にて口腔衛生指導を受けながら肺炎予防等にも重点をおくよう対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、介護職員と協力し合いながら状態の変化、健康管理に努め、必要に応じた支援を行うようにしている。緊急時には、主治医への報告にて適切な助言、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医と情報交換を行いながら指示を仰いでいる。入院中については、こまめに介護職員、看護職員が面会に伺い、回復状況の把握、担当医との話し合いを行い、早期退院に努めている。同時に環境の変化による気持ちのケアも大切に考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時、終末期ケア、重度化についての意向確認を行い、利用者様、ご家族様の思いに沿った対応を行うようにしている。また終末期、重度化になった際は、再度、主治医、ご家族様と相談しながら意向に沿った対応を行うよう努めている。(H30年度看取り件数：2件)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員にて応急処置の勉強会を行ったり、消防職員による救命講習の研修を実施するなど意識向上を図っている。緊急時マニュアルも作成し、職員が常に閲覧できる場所に設置し、常に意識を持って頂くよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員、防火管理者立会いの下、年2回避難訓練を実施し、その都度助言を頂きながら問題点の洗い出しを行っている。また地域の防災訓練にも参加し、お互いに協力し合える事を検討出来るよう努めている。H30年度より避難確保計画も作成し、地域連携にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの個性や意思を尊重し、物事を行う際は、職員の都合で利用者様の生活を制限したりすることのないよう努めている。また利用者様自身で選択し、決定して頂けるよう促しを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側からの声かけを工夫し、意見が言いやすい環境を作り出すようにしている。また遠慮や言葉を閉ざしてしまう利用者様に対しては、言葉だけでなく、行動から察知したり、サインを出すなど様々な支援から見極めるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを決めず、起床から就寝までの時間を一人ひとりのペースで過ごして頂けるよう物事を強制はしないようにしている。日頃の関わりの中でも本人様の希望、要望を聞き入れながら生活リズムの改善に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えて頂く際は、自身で衣服を選択して頂けるような場を設け、楽しみの一環に繋げている。また自身で選ぶ事が困難な方には、気温や機能性、色合い等を職員が考えながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳、汁物の調理など本人様の得意な事、力量に合わせて利用者様同士の役割分担を考えながら、やりがいや充実感、達成感に繋げられるよう支援している。またおやつ作りも充実させ、楽しみの一環となるよう計画している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日記録に残し、職員間で情報共有を行っている。嚥下状態にも注意しながら観察を行い、状態に応じて、管理栄養士、主治医へ相談しながら対応方法を検討するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの力量に合わせた支援を行っている。また職員へも口腔ケアの重要性を理解して頂けるよう勉強会を開催したり、常日頃から指導し合うようにしている。歯科往診(歯科衛生士)も開始しており、口腔衛生指導にも重点をおいて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品に頼らず、出来る限りトイレでの排泄が行えるよう利用者様一人ひとりの排泄パターンを観察しながら声かけや案内のタイミングを計っている。居室環境にも注目し、必要に応じて、ポータブルトイレの設置なども行い、「座って排泄する」といった事への支援を重要視している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に記録し、便秘傾向が見られる方には、乳製品などを提供し、自然排便に繋がられるよう努めている。日頃の運動にも目を向けるようにし、活動量の増加に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を定めず、体調や気分に応じて入浴して頂けるよう声かけを行っている。また同姓介助を心掛け、羞恥心にも配慮し、言葉の伝え方、入浴手順など個々のリズムに合わせた対応を行うよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの様子を観察し、必要と思われる時や希望が聞かれる時は休息して頂くようにしている。安心して眠れるよう服装や室温調整、灯りなどを考えたり、温かい飲み物を提供、足浴などの対応を行い、安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の説明書、注意事項を個人ファイルに保管し、薬の重要性を全職員が認識出来るようにしている。服薬時は、名前の読み上げなどを行い、誤薬の危険性にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品などを把握し、その時々希望によって個別支援を行っている。利用者様同士の共通の趣味にも目を向けるようにし、お互いに助け合い、相談しながら楽しんで頂くような場を作り上げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出行事を企画し、日にちを分けて、気の合う利用者様同士で屋外へ出掛ける機会を作っている。また地域の方と触れ合える場所(サロンなど)へ出向くなど、共に話をしたり、身体を動かしたりといった場も大切に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族様の意向に合わせて施設管理の方もおられる。本人様の意向も大切に、ご家族様と相談の下、自己管理されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて親しい方と電話で会話をしたり、ご家族様や知人へ手紙を書いて頂く機会を作ったりと、誰かに自分の思いを伝える喜びを感じて頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自然光を室内に入れるようにし、開放感のある空間を大切にしている。また換気をこまめに行うよう配慮し、空気の入替え、臭いへの対処にも注意を向けている。玄関を中心に掲示物を設け、目で見て楽しんで頂けるような空間も作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごされる事の多い利用者様には、職員が積極的にコミュニケーションを図っている。利用者様同士で関わりが持てるような会話の仲介や気兼ねなく過ごす事ができる場所を見つけ出せるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた思い出のある物を居室に持ち込んで頂き、生活空間の環境を整えられるよう支援している。また身体状況、状態に応じて、利用者様、ご家族様と相談しながら環境空間の改善を行うようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者様の身体状況に合わせて、安全に生活して頂ける環境を整えている。生活して頂く中で、不具合が生じると感じた際は、職員間で話し合いながら環境改善に努めている。		